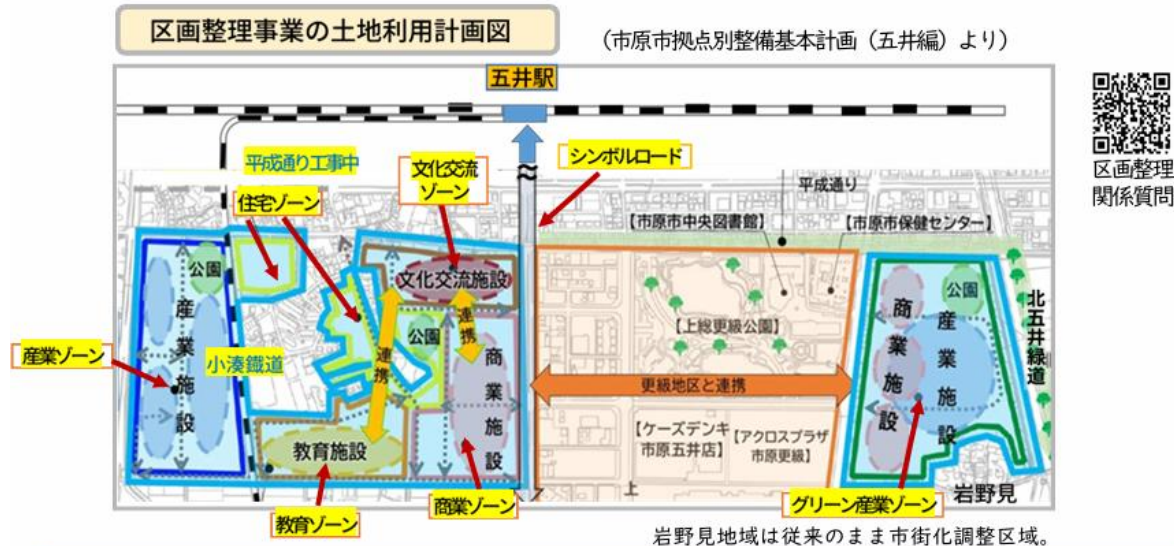


五井駅東口 まちづくり

計画全体への市の関与と市民参加のまちへ

市原市は2022年10月に策定した「市の拠点整備計画（五井編）」に基づいて、五井駅東口でまちづくりを進めています。

この計画は更級地区と同じ組合施行方式による区画整理事業で進められ、アリオなどがある場所との位置関係は下の図面に示されるようになっていきます。



計画地域はほとんどが水田であり、区画整理組合が整地し、道路や公園、雨水を貯留する調整池などを整備します。土地利用計画図では、ゾーン分けがされており、例えば、市民会館の建設地は、文化交流ゾーンの中です。市の関与する地域は、文化交流ゾーンと教育ゾーンの二カ所で、他の産業ゾーンや住宅ゾーン、商業ゾーンなどはダイワハウス工業㈱が業務代行者となって開発が進められる計画となっています。

水害対策の説明は？

大部分が水田を埋め立てる計画になり、近年の集中豪雨に対する万全の浸水対策が必要です。その対策として調整池や雨水の排水路整備について、規模や予算などを質問しましたが、現在策定中で答えられないとの答弁でした。

市民の関心事である水害対策について地域住民への説明が不十分なことは問題です。

市が関与するゾーン以外の地域は企業まかせでいいの？

文化交流ゾーンや教育ゾーンは市が直接関与し事業が実施されますが、それ以外の広大な面積を占める産業、住宅、商業などの各ゾーンは、業務代行者（大和ハウス工業㈱）が企業誘致を進める事になり、農業や中小企業など市内の産業と利害関係が生じる事もあります。

市が関与するもとで、全体が統一されたデザインや災害や環境対策、市内経済循環などが十分考慮された、大企業まかせでない、市民参加の取り組みが求められます。【福田まさひこ】